



記念館だより

2021年9月号

「子どもたちのなつやすみ」

加藤 輝勢子

コロナ禍で迎えた夏休み、始まる前はその中でできることをいろいろ計画しました。しかし、緊急事態宣言は発令され、プログラムを延期して凌ぐこととしました。そして緊急事態が終わったら、すぐに実行できるように準備を進めてきました。それでも緊急事態宣言の延長でいくつかは断念しました。とても残念です。

子どもたちは、そんな夏休みをどう過ごしたのでしょうか。私は夏休みの期間、いつもより子どもたちと触れ合うことができ、感じたことがあります。

子どもたちは記念館で遊んでいる時、本を読んでいる時もマスクをし、お弁当を食べている時には本当におしゃべりもしないで静かに食べています。そんな姿に「すごい、偉いな」と思うと同時に少し悲しくなりました。一日も早く、黙って食べている状態がなくなるようにと思わずにはいられませんでした。もしかしたら、子どもたちはこのコロナ禍にあって、いや、どんな状況においても大人以上に適応できているのかもしれない。

このコロナ禍のことを最近、政府は「災害」だといいます。医療現場のひっ迫に加えて、従来のコロナウイルスならあまり

子どもには感染しないと言われていましたが、変異株（デルタ株）は子どもにも感染していますので、本当に気をつけなければいけないです。

東日本大震災のような大災害の時も、ここ最近頻繁に起こっている豪雨等の自然災害もそうですが、その現場に暮らしている子どもたちのことを思います。避難所生活で、日常の生活や学習の機会等は奪われたと思います。そこで家の手伝いをしたり、一生懸命生きています。

個人的なことですが、豪雨被害にあったとき、避難所の小学校では地元の中学生在がトイレの水を流すためにプールから水を運ぶお手伝いをしていました。地味な手伝いですが、一生懸命でした。

どんな時代でも、災害が起こります。そして、そこで暮らしている人たちは大人だけではなく、子どもたちも日常を奪われます。大人はこの受け入れがたい状況をそれでも何とか受け入れようとしますが、子どもたちは言葉にできない事柄を、どうしていいかわからないけど受け止めています。その子どもたちの強さに甘えることなく、大人として今できることをしっかり対応していかなければならないと思いました。

学童クラブ

社会の情勢に気を配りながら、子どもたちと一緒に、学童クラブとしてできることに最大限取り組んできた夏休みでした。子どもたちは毎日朝から夕方まで共に過ごすことで、まるで兄弟のように、遊びを通じてお互いに主張し、認め合うことができるよう少しずつ成長していきました。

数年後振り返った時に、「あの夏はお出かけもお祭りも行けなかったけど、学童クラブには毎日通ってずっと遊んでいたなあ。」と、少しでも子どもたちの思い出のよりどころになれば、と願っています。(吉田)

“レトルトの日”、“昼食作りの日”のお昼ご飯は、いつものお弁当とまた違う特別感があって、子どもたちも大喜び!



「見て見て！面白い顔の魚ができた！」とこの笑顔！
みんなで水風船にオリジナルのお魚を描いて釣り競争をしました。

大人気の“宝石石けん作り”。
みんな真剣な表情で作っています。
「海の底みたい！」「冰山と波のしぶきに見える！」と、子どもたちは言葉を尽くして出来ばえを喜んでいました。



コスモス会

～7, 8月お弁当の紹介～

ここ最近のお弁当を紹介します。ボランティアさんが毎週お味も彩りも工夫!



✓を凝らした
ものばかりで
す。(針谷)

記念館トピック

【賀川研究会】



「賀川豊彦と子どもたち」—子ども学の先駆者たち—
をテキストに学びます。

9/16(木) 19:00～

本所賀川記念館3F ホール

※ 新型コロナウイルスの拡大状況によっては延期
となる場合があります。

美術教室



第2～4週水曜日 15:00～17:00

講師：亀田谷垂礼先生

8月はみんなで打ち上げ花火の絵を描きました。
夜空を彩る色とりどりの花火が館内に飾られています。

ピアノ教室

毎週月曜日

講師：土屋 紘枝先生



保育園から小学校高学年のお友だちまで、それぞれ
目標を設けてピアノの練習を楽しんでいます♪